

父母に学ぶ水活用術

指宿市立山川中学校 一年

東 ひがし 畑 はた

光 みつ 希 き

ぼくたちが生きていくために必要なもの。
その一つに「水」があります。

ぼくたちが住んでいる日本は、どこへ行ってもじゃ口をひねるだけで、当たり前のように水は出ます。でも、世界のどこの国でもそうなのでしょいか。

以前、あるテレビ番組に、住んでいる所から遠くはなれた場所まで、水くみに行く子どもの姿が映し出されていました。

子どもたちが水をくもうとしているその場所は、水たまりのような池、しかもすごくにごったどろ水でした。

「これを飲むの？」
ぼくは驚きました。

日本でその番組を見た人は、家のじゃ口をひねると、きれいな水が出ることが当たり前になっっているので、「なんであんなきたない水を飲んでいるんだろう」とか「どこかにも

つときれいな水がありそう」などと思う人も
いるかもしれません。ぼくはそうでした。

でもテレビに映し出された人々にとっては、
そのどろ水こそが貴重な水なのです。

ぼくたち日本人は、ほとんどの人が色んな
ところできれいな水のむだ使いをしていると
思います。

そのむだ使いをなくせば、一体どれくらい
の水が節約できるのでしょうか。

ぼくの父は、庭の草花にやる水は、雨水を
利用しています。一ばん中雨が降ったときは
二リットルのペットボトルに十本以上もたま
ります。

また、母は洗たくに残り湯を使っています。
一回の洗たくに使う量は六十リットルだそう
です。

この二つの実せんだけでも八十リットルの
節約になります。

このような節約を日本中の人々が行えば、
とてつもない量の水が節約できるのです。

今年のゴールデンウィーク、わが家は、家族でキャンプをしました。その前にキャンプをしたときは、テントの近くに水道があったので、今回もそのつもりで、何も準備していきませんでした。テントを張り、一段落したところで、母が

「コーヒーでも飲もうかなあ……。あ、水がない。」

家族でどうしようか考えた末、ぼくたちが飲んだジュースのペットボトルを使って、水をくんでくることにしました。ぼくたちはあるだけのペットボトルをかかえ、五分くらい歩いたところにある水道まで水をくみにいきましました。

この水を使い、母と兄はコーヒーを飲み、その後の夜ご飯では、家族五人がみそ汁を飲みました。くんできた水は、その時点ですっかりなくなっしまいました。また歯みがきでも使うのに……。

ぼくたちはまた、ペットボトルをかかえ、

水をくみに行かなくてはなりませんでした。夜の道を歩きながら、テレビで見た子どもたちを思い出しました。一日に、何度も何度も、一年中、水くみに行かなければならない生活。それがいかに大変かが、ほんの少し分かったような気がしました。

ぼくは、じゃ口をひねるだけで、きれいな水が出るところに住めて、本当に幸せなのだなぁと思いました。でも、それを当たり前だと思わずに使え人間に成長したいです。

ぼくには四歳の妹がいます。水の大切さを身近なところで教えてくれる父や母を見習い、実行し、ぼくは父のように水を大切にするお父さんになりたいです。そして、それを四歳の妹にも教え、母のようなアイデアいっぱいのお母さんになってほしいと思います。もちろん、ぼくたちが教えたことを、ぼくたちの子どもたち、そのまた子どもたちに、ずっとずっと伝えられるようになりたいです。